

第 29 回「環境月間」講演会

廃棄物処理における SDGs

AIP (株) 代表取締役 加藤栄一先生



廃棄物処理技術は進化を続けていますが、実際には現在でも燃焼技術を用いた焼却処理と埋め立て処理が主流となっています。

特別管理産業廃棄物として厳格な取り扱いを必要とされるポリ塩化ビフェニル（PCB）処理においても、大半を占める低濃度のPCB廃棄物は燃焼処理されています。また、喫緊の課題となっている紙オムツなどの有機廃棄物でも焼却処理が基本です。燃焼処理には、大量の化石燃料が投入されるため、CO₂排出の増大は避けられません。

そうした現状の中、燃焼を伴わない技術について紹介します。

- 1) 負の遺産「PCB」処理における気化溶剤圧変動洗浄技術と資源循環
- 2) 乾留反応を用いた有機廃棄物の熱分解処理技術の紹介
- 3) 亜臨界水技術を用いた有機廃棄物の加水分解処理の紹介

2026年6月9日 13:30～ 工学部共通講義棟 U3-211 教室

大阪大学内外の方々、多数ご来聴下さいますようお願い申し上げます



大阪大学環境安全研究管理センター

Tel : 06-6879-8974

E-mail : hozen@epc.osaka-u.ac.jp